

## 令和7年度県立学校部活動実態調査について

保健体育課

### 1 調査の目的

県立学校部活動における暴力・暴言・ハラスメント等の実態を把握し、部活動の在り方の改善を図るための基礎資料とする。

### 2 対 象

県立学校（県立中学校除く）81校（全日58、定通10、特支13）

- (1) 管理職（校長・副校長・教頭）
- (2) 部活動指導者（教職員・部活動指導員・外部指導者）
- (3) 部員（1～3年生）（定通制は1～4年生）
- (4) 部員の保護者（1～3年生）（定通制は1～4年生）

※調査対象は運動系・文化系（同好会含む）の全部活動

※教職員は部活動顧問を担当している全ての教職員

※特別支援学校及び定通制については、部活動のある学校のみ。

### 3 調査方法

県立学校インターネット回線(Microsoft365内の「Forms」)を活用し、アンケート調査を実施。各学校ではQRコードを部員等へ配布。部員等は自宅等で回答。

4 調査対象期間 令和7年4月～11月の事案

5 回答期間 令和7年12月15日（月）～令和8年1月23日（金）

### 6 調査結果概要

(1) 調査数 ※〈 〉内は、R6調査結果

	調査数	回答数	回答率
総数	53,782	16,692 〈17,632〉	31.0% 〈32.3%〉
内 訳			
管理職	185	185 〈182〉	100% 〈100%〉
指導者	3,759	2,080 〈4,356〉	55.3% 〈111.6%〉
部員	24,919	10,721 〈9,802〉	43.0% 〈38.9%〉
保護者	24,919	3,706 〈3,292〉	14.9% 〈13.1%〉

令和8年第5回教育委員会会議 報告事項(1)

(2) 調査結果概要

① 「部員・保護者等からの暴力・暴言・ハラスメントの訴え」

・「あった」と回答

	回答数	割合
管理職	44 〈51〉	23.8% 〈28.0%〉
指導者	20 〈34〉	1.0% 〈0.8%〉

② 「部活動で暴力・暴言・ハラスメントを受けたことがあるか」

・「ある」と回答

	回答数	割合
部員	192 (うち指導者 136) 〈181〉	1.8% 〈1.8%〉
保護者	152 (うち指導者 108) 〈127〉	4.1% 〈3.9%〉

③ 「部活動での暴力・暴言・ハラスメント」の内容 (複数回答可)

【部員】(上記②で「ある」と回答した192人中)

	回答数	割合
(1) 身体的攻撃 (殴る、蹴る、長時間の正座など)	13 〈16〉	6.8% 〈8.8%〉
(2) 精神的攻撃 (暴言、差別的言動、人格を否定した発言など)	148 〈145〉	77.1% 〈80.1%〉
(3) 人間関係からの切り離し (無視、仲間外しなど)	43 〈39〉	22.4% 〈21.5%〉
(4) 過大な要求 (競技上あきらかに不要なことや遂行不可能なことの強制、競技の妨害など)	36 〈39〉	18.8% 〈21.5%〉
(5) 過小な要求 (競技上の合理性なく能力と経験からかけ離れた程度の練習を命ずる、練習をさせない、道具を使用させないなど)	19 〈30〉	9.9% 〈16.6%〉
(6) 個の侵害 (私的なことに過度に立ち入るなど)	27 〈40〉	14.1% 〈22.1%〉
(7) 性的な内容の発言 (性的な内容の会話、個人的な性体験の話題、性的な冗談など)	3	1.6%
(8) 性的な行動 (身体への不必要な接触、不適切な視線、卑猥な写真の掲示など)	7	3.6%

※(7)・(8)に関しては、令和7年度より調査実施

令和8年第5回教育委員会会議 報告事項(1)

④「暴力・暴言・ハラスメントの相談」について

	部員 (192人)	保護者 (152人)
満足している	21 (10.9%)	4 (2.6%)
ある程度満足している	30 (15.6%)	8 (5.3%)
満足できない部分がある	34 (17.7%)	21 (13.8%)
全く満足できない	36 (18.8%)	42 (27.6%)
どちらともいえない	71 (37.0%)	77 (50.7%)

⑤ 相談をして「満足できない部分がある」「全く満足できない」理由  
(複数回答可)

	部員 (70人)	保護者 (63人)
具体的な解決策の提示がない	31 (44.3%)	28 (44.4%)
対応に誠意が感じられない	21 (30.0%)	20 (31.7%)
対応が遅い	20 (28.6%)	17 (27.0%)
相談者に寄り添っていない	13 (18.6%)	24 (38.1%)
相談後のフォローアップがない	11 (15.7%)	21 (33.3%)
対応者によって対応が異なる	10 (14.3%)	14 (22.2%)
その他	11 (15.7%)	17 (27.0%)

⑥「部活動に関する悩み」について (複数回答可)

【部員】	回答数	割合
特段の悩みはない	7,831 (6,895)	73.0% (70.3%)
学業との両立	1,591 (1,392)	14.8% (14.2%)
部活動時間・日数が長い	1,193 (1,180)	11.1% (12.0%)
部活動指導者からの私用の携帯電話 (メール、LINE含む)等からの連絡 ・指示が多い	45 (47)	0.4% (0.5%)
県内外遠征費用の負担が多い	393 (391)	3.70% (4.0%)

【保護者】	回答数	割合
特段の悩みはない	2,153 (1,720)	58.1% (52.2%)
学業との両立	665 (637)	17.9% (19.3%)
部活動時間・日数が長い	446 (460)	12.0% (14.0%)
指導者の行きすぎた指導	36 (43)	1.0% (1.3%)
県内外遠征費用の負担が多い	326 (403)	8.8% (12.2%)

⑦「校内研修以外に年1回の研修の受講」について、  
※対象者、専門とする指導者 1,007名 (2,136名)

	回答数	割合
受講した	926 (1808)	92.0% (84.6%)
受講していない	81 (200)	8.0% (9.4%)

⑧ 「沖縄県高校部活生メッセージ2023の内容」について

	管理職	指導者	部員	保護者
内容を把握している	134 (72.4%)	1,023 (49.2%)	889 (8.3%)	199 (5.4%)
一部の内容を知っている	43 (23.2%)	698 (33.6%)	989 (9.2%)	411 (11.1%)
読んだことはあるが、覚えていない	8 (4.3%)	166 (8.0%)	381 (3.6%)	169 (4.6%)
名称は知っているが詳細は知らない	0 (0%)	105 (5.0%)	925 (8.6%)	409 (11.0%)
全く知らない	0 (0%)	88 (4.2%)	7,537 (70.3%)	2,518 (67.9%)

⑨ 「沖縄県高校部活生メッセージ」が把握できていない理由について

	部員	保護者
学校からの連絡ツール等で情報提供があったが、読んでいない	1,228 (13.9%)	301 (9.7%)
学校からの連絡ツール等で情報提供があり読んだが、一度では内容を覚えられない	584 (6.6%)	278 (9.0%)
学校からの情報提供が多く、見落としていた	3,204 (36.2%)	1,391 (44.9%)
学校からの情報がなかった	3,228 (36.5%)	1,057 (34.1%)

⑩ 「今後部活動顧問として活動する意向」について (1,312名教職員のみ)

	回答数	割合
積極的に引き受けたい	337	25.7%
条件や体制を整えば引き受けたい	615	46.9%
今は難しいが将来的な可能性はある	28	2.1%
現時点では顧問業務は控えたい	332	25.3%

(3) まとめ

- ① 「ハラスメント等を受けたことがある」と回答した、部員と保護者が前年度より微増しており、その内容は、前年度と同様に「精神的攻撃」が大きな割合を占めている。また、「部活動に関する悩み」の問いにおいて、指導者からの携帯電話による連絡・指示が多いとの回答も依然としてあることや、「身体的攻撃」のみならず、暴言、差別的言動や人格を否定する言動などは精神的苦痛を与えるハラスメントであることを指導者には十分理解させる必要がある。
- ② ハラスメント等の相談結果からは、「具体的な解決策の提示がない」といった理由で、満足できない状況があり、学校の対応については、より具体的な対応を取り、相談者への事后面談等も充実させていく必要がある。

- ③ 部活動指導者を対象とした研修を受講した割合は、年々増加しているが、依然として「研修の実施を把握していなかった」という理由で研修を受講していない指導者がいることから、全員受講の仕組みについて、再考していく必要がある。
- ④ 「沖縄県高校部活生メッセージ2023」の内容について、「全く知らない」と回答している部員や保護者の割合が依然として高い。暴力・暴言・ハラスメントの根絶を目的に、生徒が発信したメッセージを、指導者、学校、保護者も含めて、尊重していくよう、再度周知していく必要がある。
- ⑤ 今後、部活動顧問として活動する意向について、「条件や体制が整えば引き受けたい」と回答した教職員が最も多い結果であった。

## 7 今後の対応

県教育委員会では、様々な取組を行ってきたが、今年度調査においても、192名(1.8%)の生徒が、暴力・暴言・ハラスメントを受けたと回答しているなど、根絶に向けての取組は喫緊の課題となっている。今後は、研修の内容やあり方の検討を行うとともに、県教育委員会の積極的な学校訪問等をおして、より人権意識の高揚を図り、暴力・暴言・ハラスメント根絶に向けて取組を強化する。

また、指導者の資質向上に向けた取組とともに、生徒間でハラスメント等を受けたとの回答も多かったことから、関係課と連携を図りながら生徒への人権意識の高揚にも一層取組む。

さらに、「今後の部活動顧問として活動する意向」の問いに対する回答状況も踏まえつつ、「部活動等の在り方に関する方針(改訂版)」に則り、部活動の改革を推進していく。

### 【県教育委員会の主な取組み】

- ① 部活動指導者研修会の実施
- ② 生徒等からの相談等に対して、学校と協力しながら解決に向けた取組
- ③ 部活動実態調査結果の各学校へフィードバックと、学校訪問による指導助言
- ④ 「沖縄県高校部活生メッセージ2023」のさらなる周知
- ⑤ 指導者の困り感を把握・共有し、適切かつ円滑に指導を行える環境づくり
- ⑥ 「子どもの人権」に係る意識の高揚を図るための、関係機関等との連携

### 【学校の主な取組み】

- ① 校内の実態把握に努め、その解決に向けた迅速・適切な対応
- ② 部活動の在り方に関する方針(改訂版)の徹底
- ③ 「沖縄県高校部活生メッセージ2023」の再確認と理解周知の徹底
- ④ 指導者に対する研修(校内研修の実施、校外の研修会への参加を促進)
- ⑤ 部員や保護者からの部活動に係る相談体制の整備と周知